

## 日女薬カレントニュース第 24 号(2022 年 9 月配信) のご紹介

日女薬カレントニュース第 24 号では、

- ・日本学術会議公開シンポジウム「高齢者の健康・生活の視点から新型コロナ感染症対策に求められる老年学の役割と発揮」参加報告、
- ・「あなたやお子様は環境過敏症ではないですか？」と題し、長年生活環境疫学研究に取り組んでこられた北條祥子先生のご寄稿を 2 回にわたりご紹介いたします。
- ・医療安全確認クイズでは「重篤副作用疾患別対応マニュアル アカシジア」を取り上げます。



【感染症情報:東邦大学名誉教授 村井貞子先生】

・[限りある医療資源を有効活用するための医療機関受診及び救急車利用に関する 4 学会声明\(kansensho.or.jp\)](https://kansensho.or.jp)

「～新型コロナウイルスにかかったかも?と思ったときにどうすればよいのか～」

主にオミクロン株 BA.5 による COVID-19 の新規感染者数は、本年 7 月中旬より全国で急増し、8 月下旬に至っても、なお高止まりの様子をみせています。病床使用率はほぼ全国的に増加し 17 日現在で 40 都県(85.1%)が 50%を超え、70%以上が 14.9%と高い割合となり(厚生労働省資料)、その後も更に高率になり、コロナ患者のみならず一般の医療体制にも大きな負荷を生じています。実際には、医療従事者の感染或いは濃厚接触者数も増加し、実働可能な病床数はさらに少ない事から、医療が逼迫しているようです。一方、救急搬送困難事案についても非コロナ疑い事案、コロナ疑い事案共に増加が続いており、入院の必要な人に医療が届かず、救える命が失われる結果を生じています。

オミクロン株の感染では軽症患者が多数を占めているという状況を踏まえ、医療提供体制危機を改善する目的で、医療機関と救急車利用に関する声明が 8 月 2 日に四学会(日本感染症学会、日本救急医学会、日本プライマリ・ケア連合学会、日本臨床救急医学会)から「国民の皆さまへ」と題して発出されました。一般国民に解りやすく呼びかけ、症状の程度に応じた行動指針を具体的に解説しているのので是非本文をご一読いただきたいと思います。以下に厚労省会議資料から概要を引用しました。 [000972886.pdf \(mhlw.go.jp\)](https://www.mhlw.go.jp/000972886.pdf)

- 症状が軽い場合には、65 歳未満で基礎疾患や妊娠がなければ、限りある医療資源を有効活用するためにも、検査や薬の為に慌てて医療機関を受診する事は避けること。
- 症状が重い場合や、65 歳以上の方や基礎疾患がある方、妊娠中、ワクチン未接種の方などは、重症になる可能性があるため、早めにかかりつけ医や近隣の医療機関へ必ず相談、受診(オンライン診療を含む)すること。
- 救急車を呼ぶ必要がある症状には、顔色が明らかに悪い、意識がおかしい(意識がない)、日常生活で少し動いただけで息苦しい、肩で息をしている、等がある。このような場合には救急車を呼ぶことをためらわない。
- 救急車の利用の判断に迷う場合には、普段からの体調を把握しているかかりつけ医への相談、各種相談窓口などを活用すること。

「救急車利用リーフレット(高齢者版, 成人版, 子供版) <https://www.fdma.go.jp/publication/portal/post9.html>

・ 今年も秋を迎えて一昨年来警告されている COVID-19 とインフルエンザの同時流行が懸念されています。日本では 2 年間流行がなかった為に国民の間の免疫低下があり、更にインバウンドの緩和がされており、「要注意 !!」です。

日女薬会員ページから日女薬カレントニュース第 24 号(2022 年 9 月版)をご参照ください。

